

平成22年12月9日

継続学習制度（CPDS）について

（但し、連合会以外ではCPDとも表示されます）

継続学習制度（CPDS）とは、技術者が自己研鑽の活動を通じて、国民の福祉に役立つ良質な目的物を創造するために必要となる技術力と資質の向上を図る目的で、（社）全国施工管理技士会連合会が運営する制度です。

具体的には、CPDS加入者（会社または個人）が認定講習会（施工管理等に関する技術力および資質の向上に資する学習プログラムに限定されます）で学習した場合に、（社）全国土木施工管理技士会連合会へ学習履歴を登録し、必要に応じて同会が学習履歴証明書を発行するというものです。

この学習履歴は、技術者の研鑽を積む姿勢を現すため、技術力を評価する指標としても有効と考えられ、多くの行政機関がCPDSの点数を技術評価項目として活用（公共工事の発注における総合評価制度において活用）しています。

当センター主催の平成23年度1・2級土木施工管理技士 受験準備特別講習会は、CPDSの認定講習です。受講されますと、学習履歴として登録できますので、所定の申請書をご送付いただきますと、当センターで受講を証明（受講証明を発行）させていただきます。

CPDS（継続学習制度）メリット

「公共工事の品質確保の促進に関する法律」（品確法）の施行（平成17年）をうけ、国や地方自治体等の工事入札において、技術力と価格で評価する総合評価落札方式が拡大・定着しています。その中で地方自治局等では企業の技術力（配置予定技術者の能力）の評価項目の一つとして、CPDS（継続学習制度）の実績を取り入れている企業を評価するという傾向になっています。

また、入札参加資格審査においても所属技術者のCPDSの実績を評価する地方公共団体等も年々増加、技術者の継続学習は受注業者の選定にも活用されるものとなってきています。

以上